



今年、国立公園指定90周年を迎えた富士箱根伊豆国立公園。八丈島もその一部であることをご存じでしょうか。(※)
今回は八丈ビジターセンター長の高須英之さんに、国立公園である八丈島の魅力や、ビジターセンターの役割、未来へ残したい想いについて伺いました。
※八丈島を含む伊豆諸島は1964年に編入



島を知る「玄関口」として・・・

(高須さん)「ビジターセンターは、自然公園を利用される方に周囲の自然や人文をわかりやすく展示・解説し、情報提供するための施設です。」

観光客にとって島の「玄関口」のような役割も担うビジターセンターでは、観光客への案内だけでなく、島民に向けたさまざまな取り組みも行っています。

また、昔から学校と繋がりががあると語る高須さんは、近年は学校との連携の形にも変化がみられると話します。

「パソコンで授業ができる時代になり、島外の学校にもオンラインで繋がりが、都内の先生や小学生に八丈島の授業をすることもあります。コロナ禍以降に、都内のいくつかの小学校の子供たちの質問に答えるなど、環境教育を行っています。」

歴史的背景や自然環境を持つ八丈島は、現在都内の小学校でも学習教材として取り上げられており、ビジターセンターは、島を訪れる人々に魅力を伝えるだけでなく、オンライン授業などを通じて島外へ八丈島の自然や文化を発信する役割も担っています。

変わらない島を未来へ

国立公園90周年から考える、八丈島との向き合い方



“海”を作る水槽

元々ダイビングインストラクターをされていた高須さん。八丈島の魅力のひとつが海だと語ります。

「展示している水槽は『ダイバーも楽しめる水槽』をコンセプトに作っています。生き物は月に1回入れ替えを行い、様々な生き物を入れることで“海”を作っています。夜にしか出てこない生き物や、いつの間にか水槽内で増えている生き物もいるんです。」

日々、島の自然に関する情報の発信を行うビジターセンター。自分たちが情報発信を続けることが大切だと言います。

「普段見ている生き物が伊豆諸島ならではの生き物であること、他の地域にはいないということ。島から出ないと分からないと思いますが、島で見ている生き物は少し違うということを知ってほしいと思います。それが結果的に島の自然を守ることに繋がると思います。」



近くて遠い島

八丈島を伝える上で欠かせないのが八丈小島。

2007年、八丈小島で野生化していたヤギの捕獲が完了したことで植生が回復し、鳥たちの楽園へと変わりつつあります。

「八丈小島は直ぐ近くにあるのに、行きたくてもいけないという部分がいいのかもしれません。人が入らないことで守られている部分も多くあると思います。」

現在は小島で生まれたクロアシアホウドリの調査も進められており、さらに注目を集めています。今後の調査によって、新たな発見につながることを期待されています。

八丈島の未来に望むこと

高須さんへ10年後の八丈島について尋ねると、返ってきた答えは意外なものでした。

「一番望むことは“変わらないこと”です。」

昔は当たり前に見られた生き物が、今では見られなくなってしまったという話は少なくありません。最近、島内でたくさん見られるようになった「スマイレの仲間」がその一例だと言います。

「20年ほど前にある地域に『珍しいスマイレがあるね』という話がありました。ですがそのスマイレは、現在は島全体に広がっています。つまり、そこに元々生息していた植物が今は見られなくなり、スマイレに置き換わってしまっているということです。そういった状況についても考えていかなければなりません。」

長年、島の自然と向き合ってきた高須さんだからこそ、“変わらないこと”の大切さを誰よりも実感しているのかもしれない。

「『こんな生き物がいたよね。こんな花あったよね。』というように、昔話にはならないようにしたいです。」

守るために知る

島を守るために我々島民にできることは何でしょう。高須さんは次のように話します。

「外来種を放さない、生息していない植物の持ち込みをしないことです。島の生き物よりも繁殖能力が強い植物が入ってきた場合、それは問題なので、園芸植物などにも気をつけなくてはならないのかもしれない。」

八丈島の豊かな自然をこれ以上失わないよう、島民一人ひとりに知ってもらうきっかけが必要だと言います。

“伝え続ける”ということ

八丈島の未来のために、ビジターセンターの担う役割は“伝え続ける”ことだと高須さんは話します。島民が意外と知らないことや、自分たちの使命について、八丈富士を例に話してくれました。

「八丈富士のお鉢の内側は国立公園の特別保護地区になっており、とても厳しい規制があります。植物の採取や動物の捕獲はもちろん、落葉や石を持ち帰ってもいけません。このようなことを知ってもらわなければいけないと感じています。」

普段の情報発信を続けることこそ八丈島の豊かな自然を生かしていく第一歩。ビジターセンターは、島の未来を守りつなぐため、これからも情報発信を続けていきます。

高須さんから島民の皆さんへ

「国立公園90周年と急に言われても難しいと思います。八丈島が国立公園だと知らない島民の方も多いですし、これを機に知っていただけると嬉しいです。『今年は国立公園90周年で、あと10年で100年か』みたいなことから、まず知ってもらうきっかけは必要だと感じます。」

そうしたきっかけの場として、高須さんが挙げたのがビジターセンターの定期イベントです。

「ビジターセンターでは様々な行事を開催しています。毎月定期的に開催している行事や、ゴールデンウィークや夏休みなどには特別行事も開催しています。ホームページやSNS、広報などでしか発信していないので見過ごされてしまう部分があるとは思いますが、気軽に参加していただきたいです。」

編集後記

国立公園を知ること、島の自然に触れることも、決して特別なことではありません。まずは身近にある「あたりまえ」に関心を向け、その魅力を知ることが八丈島の未来を守りつなぐでいく事だと感じています。

10月にはビジターセンターにて天然記念物の鳥の講演会を行うそうです。

ホームページやXでイベントなどの情報を発信していますので、ぜひ皆さんもご覧になってはいかがでしょうか。



◀ ビジターセンターホームページ



ビジターセンター公式X ▶